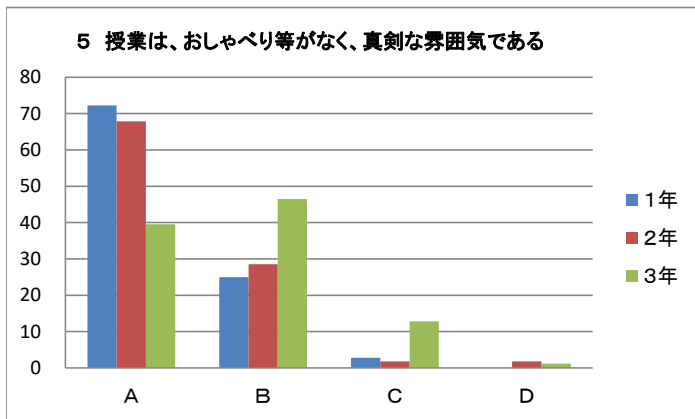
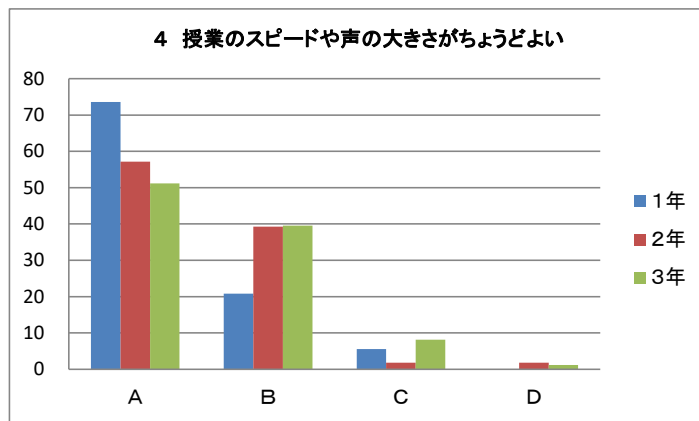
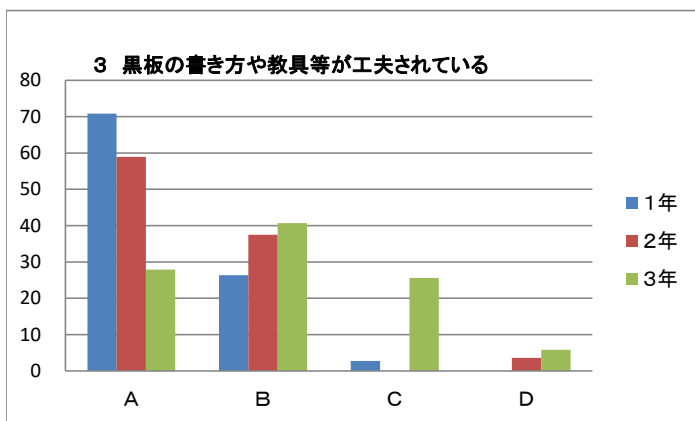
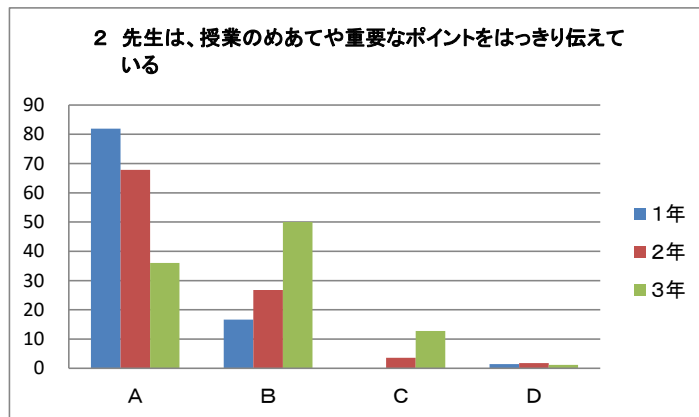
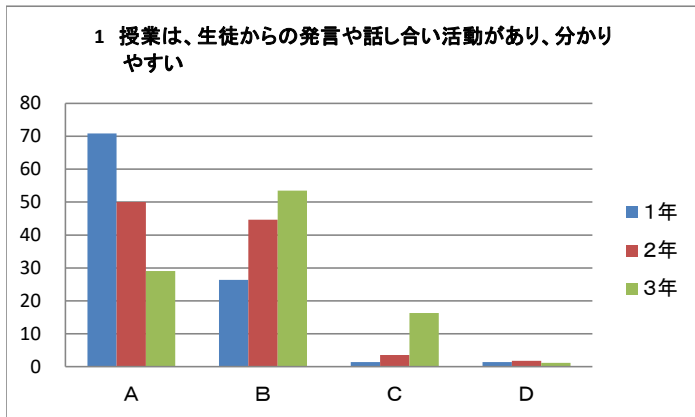


令和元年度 7月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【国語】

A:強く思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない



【分析】

全体として肯定的な回答が多かった。「4」からは、授業に対しての生徒の理解度が高いことがわかる。さらに「2」「3」から、より正確で分かりやすい指導を望む向上心が見られる。今後も、意見を発表する表現力、交流により他者の考え・主張・意見を取り入れる判断力、理解できたことを文章にする思考力の深化のため、授業改善に継続的に取り組んでいく。

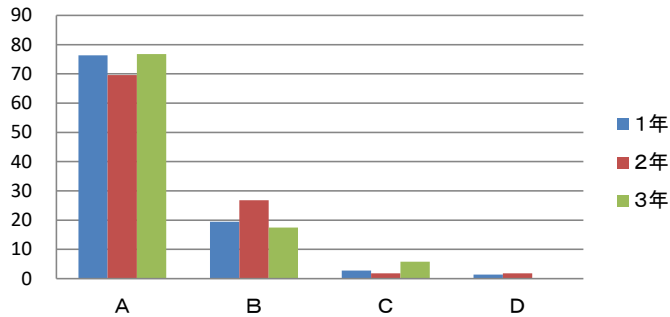
【課題】

[1年]準備が周到で、授業での集中力が高く、とても積極的に発言・意見交流に取り組み、重要点をまとめる能力も伸長している。「1」「2」から、一人一人が充実感を得ていると考えられる。今後は課題における完成度を高められるよう、文章を推敲する姿勢を育成する。
[2年]授業における集中力がとても高く、文章の作成能力が大きく伸長している。また設問に対して、個人での思考判断の精度が高いので、相互での意見交流を経て思案を整理する機会をさらに設定し、より自主的な発言・助言ができるように個の自信の育成に励む。
[3年]すべての項目においてA評価が少ないことから授業への期待の高さを感じる。ノートを取ることが苦手な生徒が少なからずいることに配慮し板書をさらに工夫し、生徒の書く力を高めていくことが課題である。

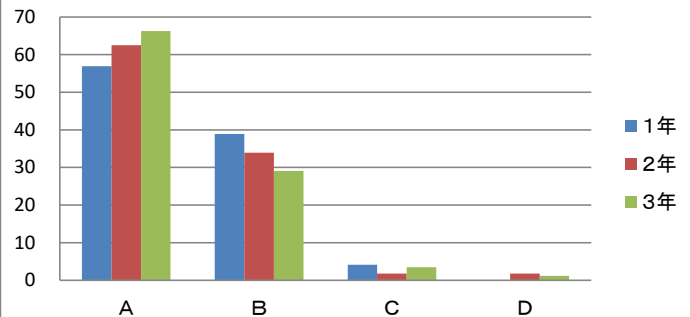
令和元年度 7月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【社会】

A: 強くそう思う B: 大体そう思う C: あまりそう思わない D: 全くそう思わない

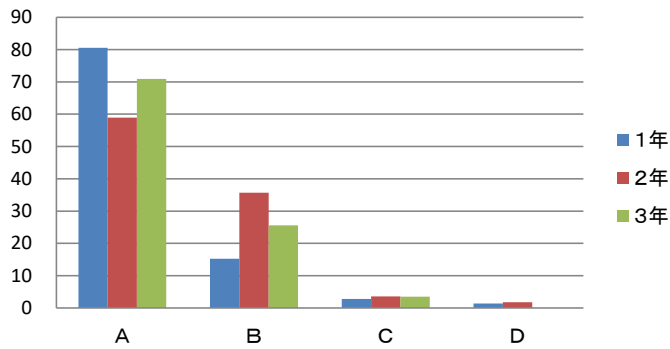
1 授業は、生徒からの発言や話し合い活動があり、分かりやすい



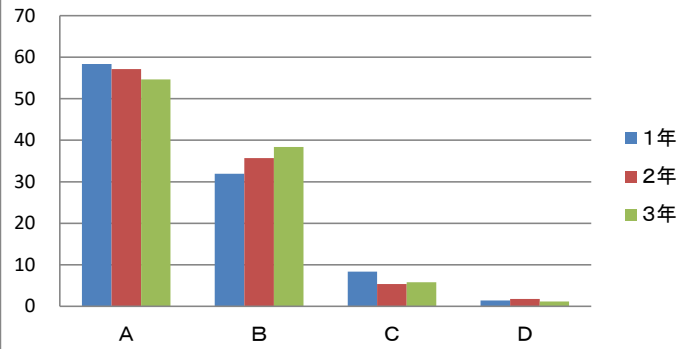
2 先生は、授業のめあてや重要なポイントをはっきり伝えている



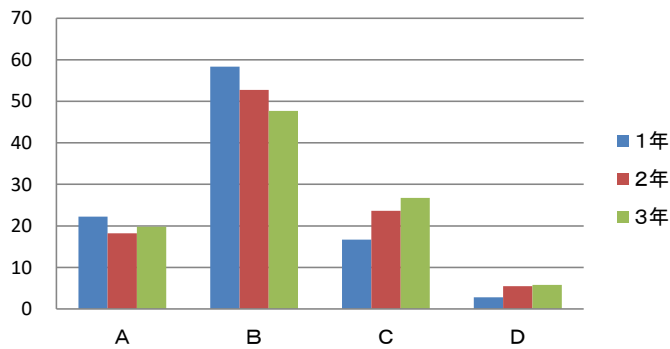
3 黒板の書き方や教具等が工夫されている



4 授業のスピードや声の大きさがちょうどよい



5 授業は、おしゃべり等がなく、真剣な雰囲気である



【分析】

全体的に肯定意見が多かったが、「5」の結果から、どの学年でも授業規律の点で課題がみられた。授業では、ICTの活用や対話的活動を多く取り入れ、生徒が主体的に学ぶことができるように授業の工夫を行ったことが結果として表れた。「1」の結果から、生徒も話し合いの重要性について感じていることが見られる。今後も課題の改善を図りながら、生徒の主体的で対話的な深い学びを実現できるよう授業の工夫を行っていく。

【課題】

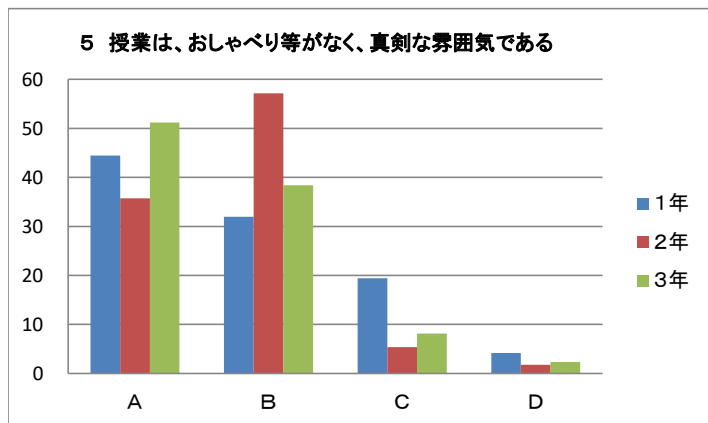
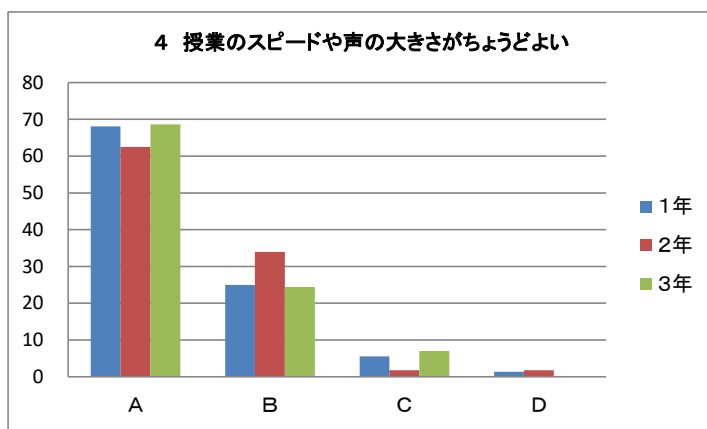
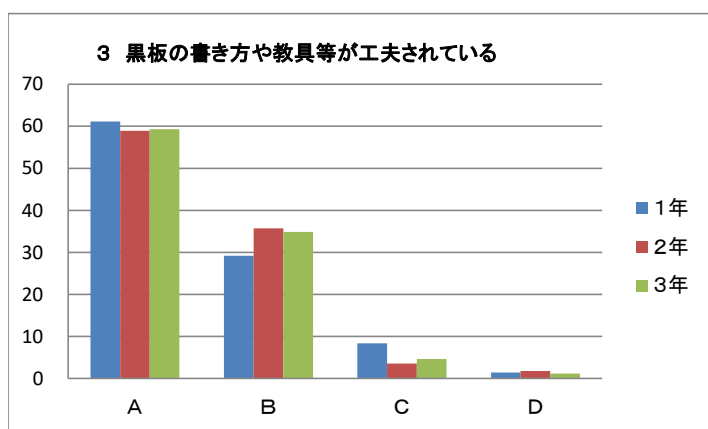
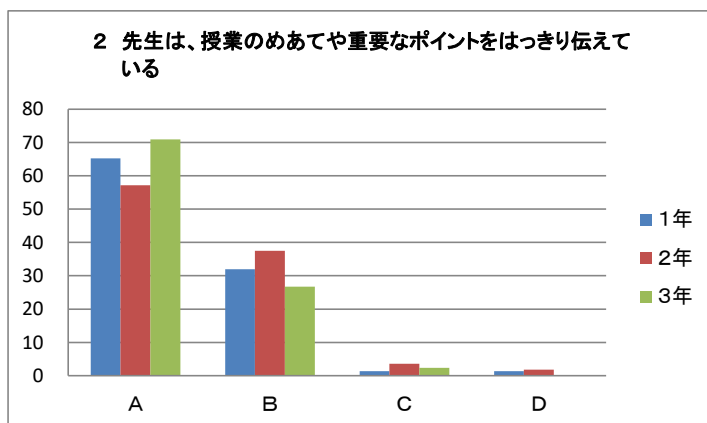
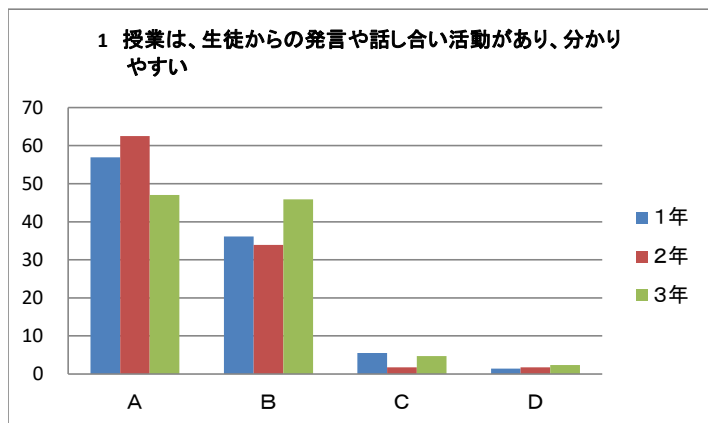
「1年」「2年」「5」の結果から、授業の要点、授業規律の点で課題がみられることがわかる。毎回の授業で授業のめあてや見通しを提示するとともに、メリハリをつけて活動に取り組めるような指示出しや発問の工夫していく。

「2年」「5」の結果から、授業規律の点で課題がみられるが、授業自体は活発で積極的な発言が多く、意欲的に取り組む生徒が多い。生徒の積極性を生かしつつ、授業内での学びを深められるようにペア学習やグループワークなど授業形態を工夫していく。

「3年」「5」の結果から、授業の中でメリハリをつけて活動に取り組むことが課題である。公民的分野の授業では、対話的活動を取り入れ、グループでの授業形態が比較的多くなるので、ワークシートの工夫や社会科班の編成を行うなどして、生徒が主体的に活動に取り組めるように指導をしていく。

令和元年度 7月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【数学】

A:強くそう思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない



【分析】

全体的に肯定意見が多かった。指導の方法は、習熟度別のクラスに多少の違いがあるが、話し合い活動を随所に取り入れ、協働して課題を解決する授業を行っていることが結果として表れた。「1」の結果から、話し合い活動等にやりがいを感じていることが分かる。

【課題】

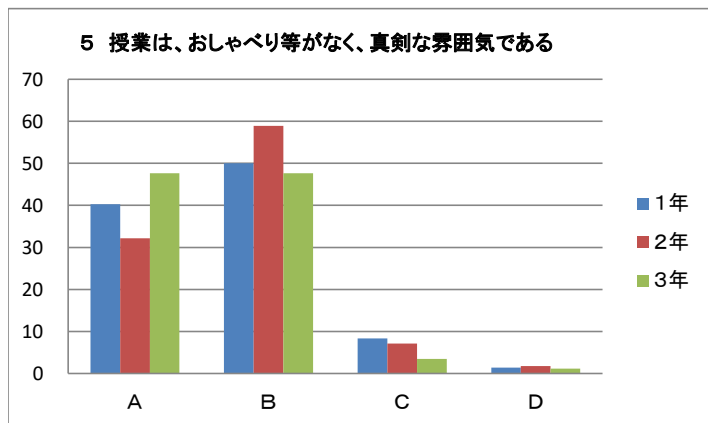
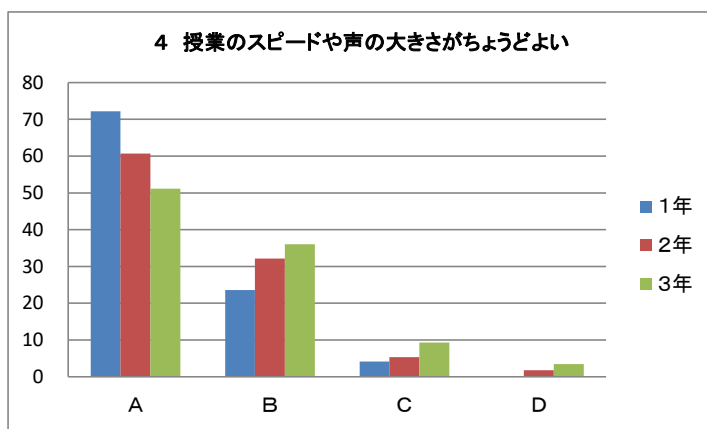
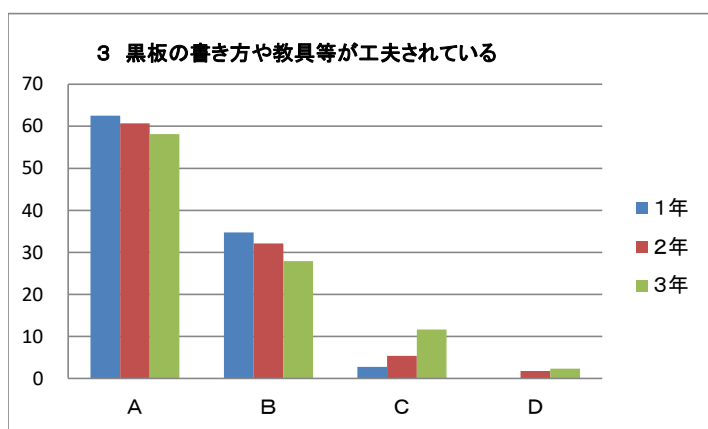
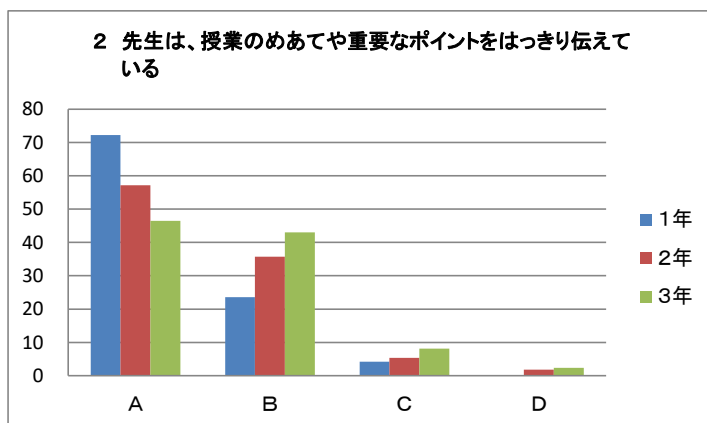
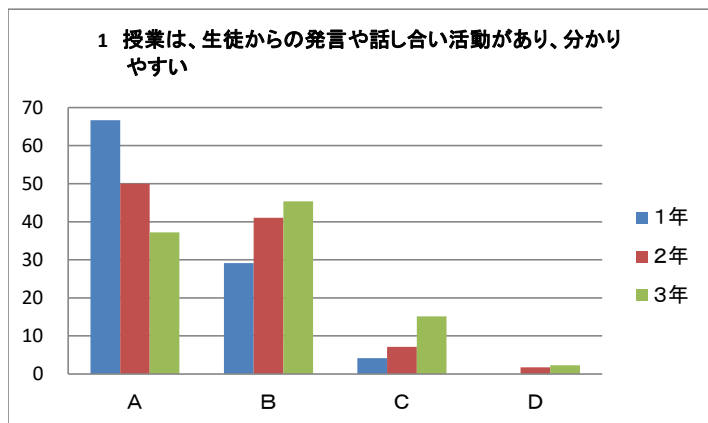
[1年]授業規律の部分にやや課題があるが、中学一年生の特性として、羞恥心なく発言することが、度を越していると捉える生徒がいると考えられる。授業中のメリハリを付け、発言等に対する態度を身に付けさせていく。

[2年]「2」の結果から、1時間の授業の見通しをを生徒にもたせることや、授業のポイントを分かりやすく押さえることが若干の課題である。1時間の授業で生徒が学んだことを、生徒自身にまとめさせる工夫していく。

[3年]「4」の結果から、授業スピードに課題があると見られるが、受験を控えているということもあり、予習を多くしている生徒には、進度が遅く感じられると思われる。そういった生徒には、プラスαの課題を与えるなどの授業改善を図る。

令和元年度 7月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【理科】

A:強く思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全く思わない



【分析】

全体的に肯定意見が多かった。「1」と「5」の結果から、授業が真剣な雰囲気であると感じている生徒が多い半面、生徒からの発言や話し合い活動が少ないと感じている生徒もいる。真剣な雰囲気が発言しづらいと感じている生徒がいると考えられる。

【課題】

[1年]授業規律の部分にやや課題があるが、実験中の話し合い活動や授業中の発問時の話し合いがややメリハリに欠けると捉える生徒がいると考えられる。授業中のメリハリを付けられるよう、指示を出していく。

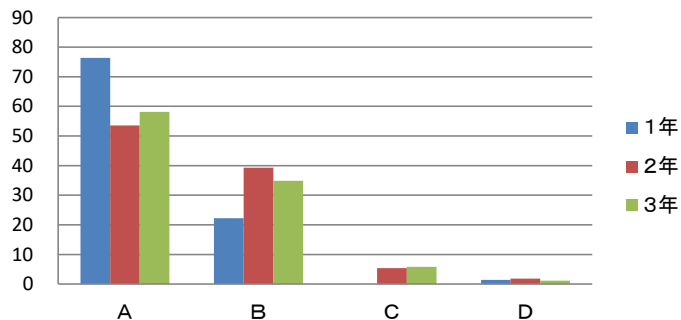
[2年]「1」の結果から、生徒に発言させる場面や話し合い活動を増やすことが若干の課題である。個人が考えたことを班で話し合い、皆で共有し、また個人でまとめる場面を増やしていく。

[3年]「1」の結果から、生徒に発言させる場面や話し合い活動を増やすことが若干の課題である。実験で生徒が考えたことを、皆で共有させ、まとめさせる工夫をしていく。

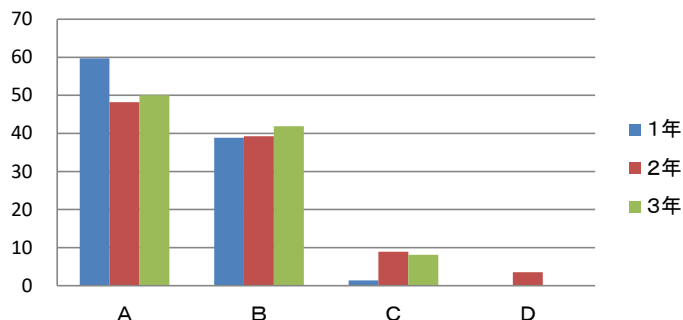
令和元年度 7月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【英語】

A:強く思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない

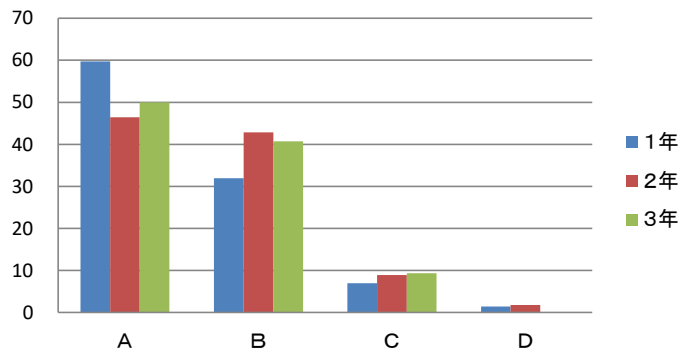
1 授業は、生徒からの発言や話し合い活動があり、分かりやすい



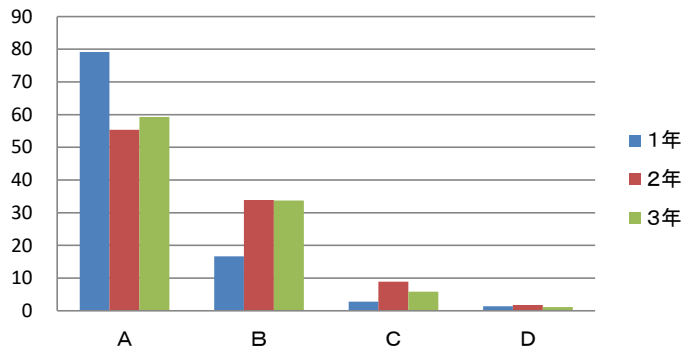
2 先生は、授業のめあてや重要なポイントをはっきり伝えている



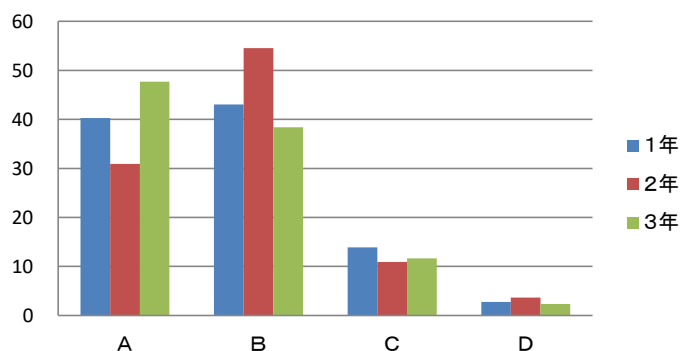
3 黒板の書き方や教具等が工夫されている



4 授業のスピードや声の大きさがちょうどよい



5 授業は、おしゃべり等がなく、真剣な雰囲気である



【分析】

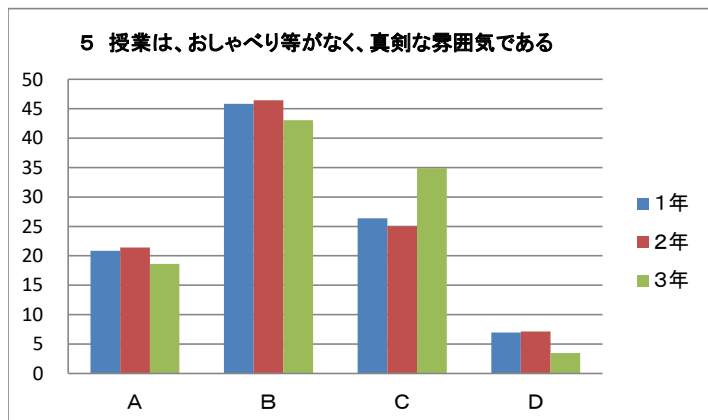
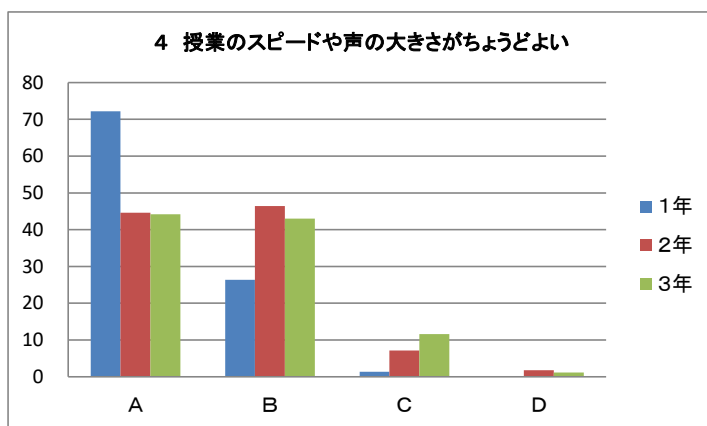
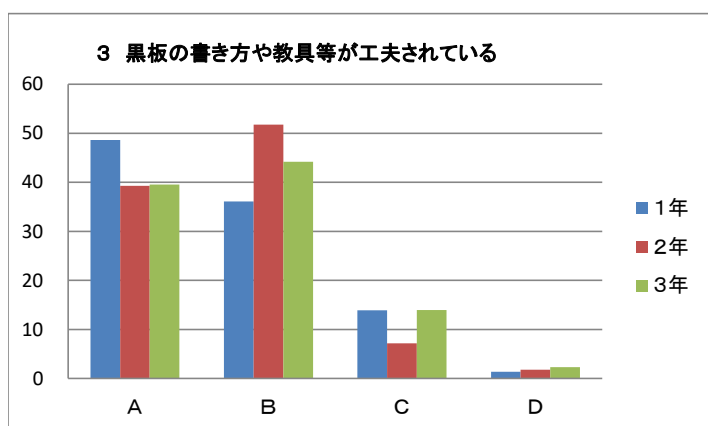
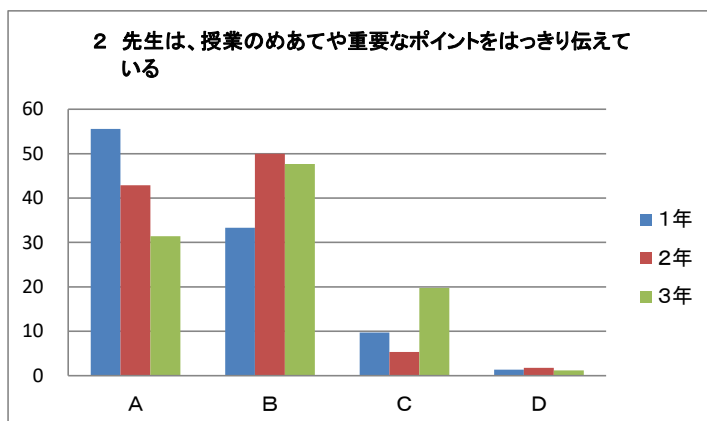
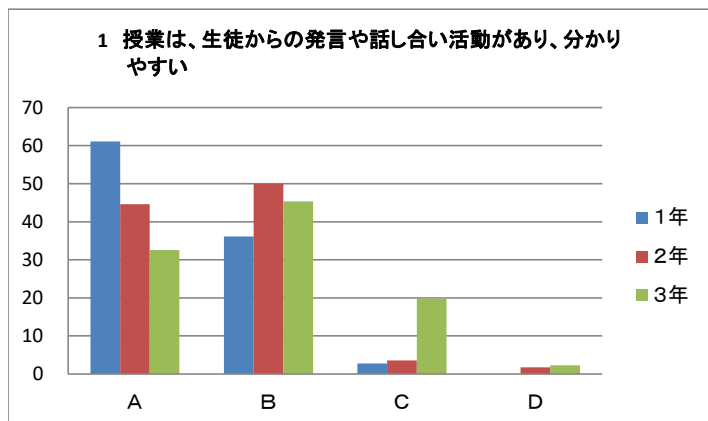
肯定的な意見が全体的に多い。授業方法は、少人数別のクラスで多少の違いはあっても、ペアやグループでの会話活動や生徒とのインタラクションをベースに授業を行っている。「1」の結果から、生徒も活動の意義を感じていると見ることができる。

【課題】

【1年】授業ルールに則って意欲的に参加する部分では、1学期後半までに90%以上の生徒ができるようになった。50分内に短時間の活動を複数行う必要がある英語科の特性上、1年次は次の活動への切替えが速やかにできない生徒が少数いるため、指導を継続していく。
 【2年】「2」の結果から、1時間の授業の目標を意識させ、生徒に見通しをもたせることや、授業のポイントを分かりやすく押さえることが課題である。また「5」の結果から、授業規律に多少の課題が見られるので、活動にメリハリをもたせられるような授業展開を意識していく。
 【3年】全体を見ると、1年に比べて2・3年になるにつれて「2」や「4」の結果から、ポイントを理解させることや授業のスピードに関してより意識して改善する必要があると感じた。また、4つの技能を着実につけるためにも、様々な活動のメリハリをつけ、他学年同様に「5」の授業規律をより徹底させていく。

令和元年度 7月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【音楽】

A:強くそう思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない



【分析】

「1」～「4」の設問に対し、A・Bと回答する生徒が多く、肯定的な意見が多い。一方で、「1」「2」の設問に対し、3学年でCと回答する生徒が他の学年より多く、重要なポイントや授業の理解が進んでいないことが分かる。また、設問「5」に関しては、全学年で他の設問よりマイナス評価が多い。

【課題】

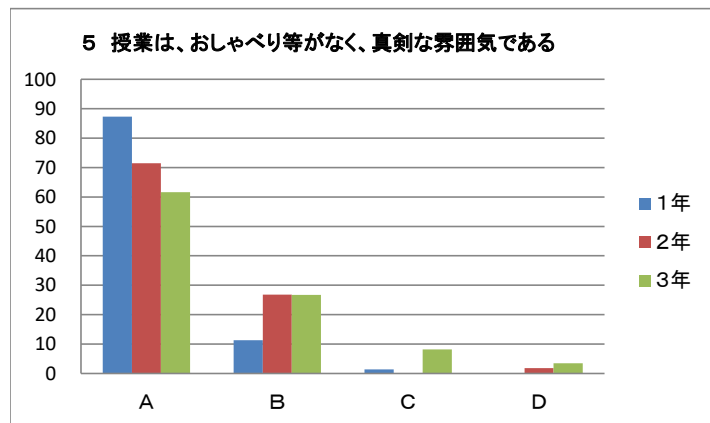
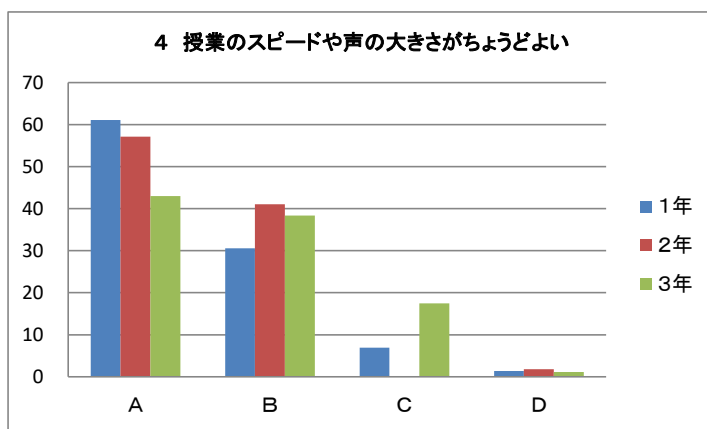
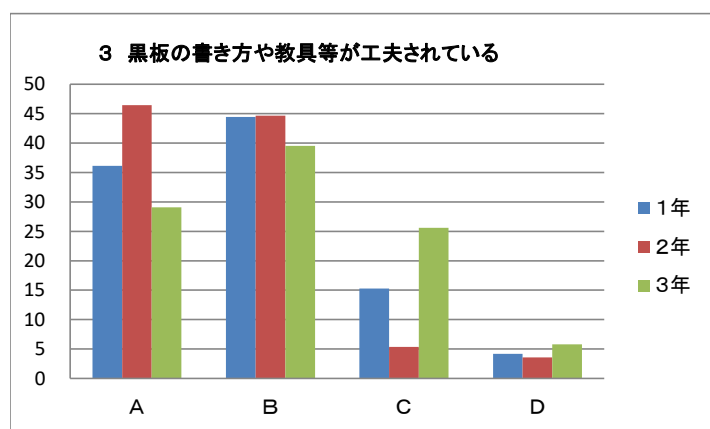
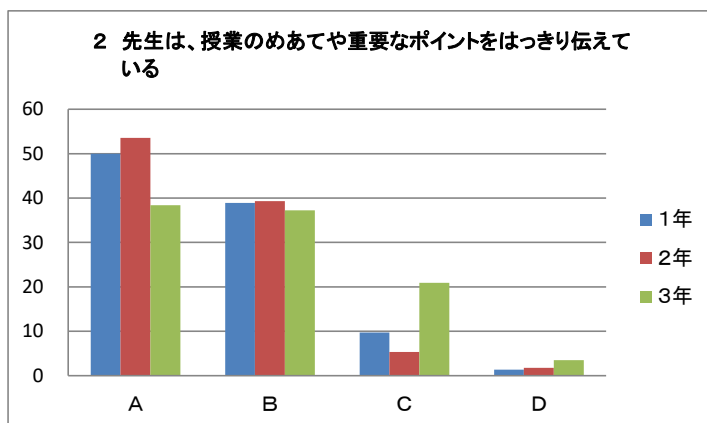
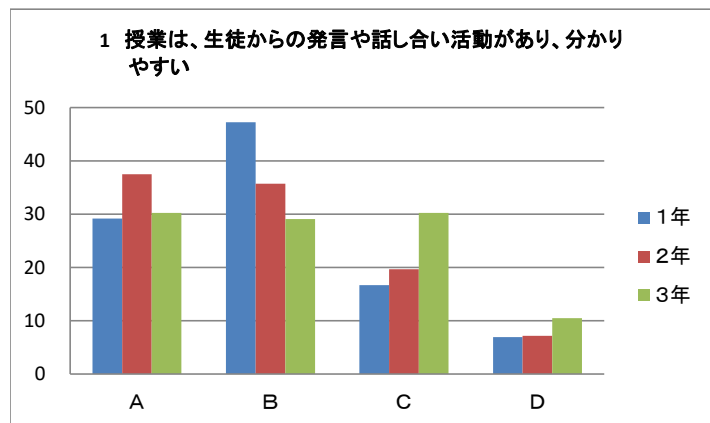
[1年]メリハリをつけて授業にとりくめるよう、授業規律を整えていく。毎回の授業のめあてを明確にし、そのめあてに対する自分の取り組みを振り返る時間を持てるようにする。また、重要なポイントは視覚的にも分かるよう、板書の工夫も行っていく。

[2年]授業規律を整えていく。設問「1」から生徒が意見を出し合う活動をあまり積極的に行えていないことが分かる。思考を促す発問の工夫や協働的に取り組めるグループワーク等を授業に取り入れ、分かりやすい授業につなげていく。

[3年]授業規律を整えていく。授業の理解を深めるために、生徒が協働的に学習できるよう指導計画を立てる。また、毎回の授業のポイントを明確にし、ICTを活用する等、教具の工夫も行う。

令和元年度 7月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【技術】

A:強く思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない



【分析】

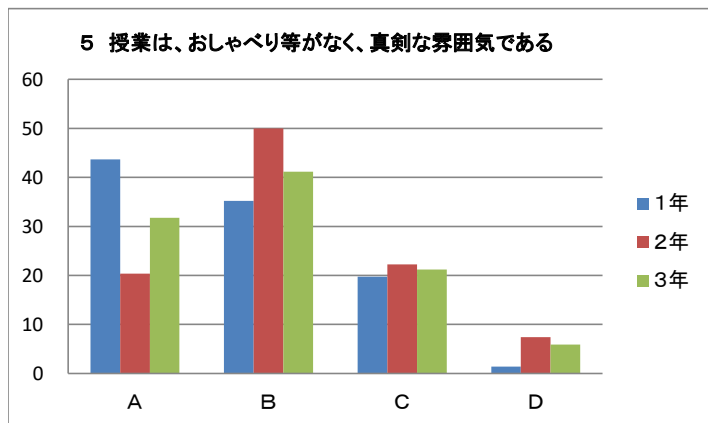
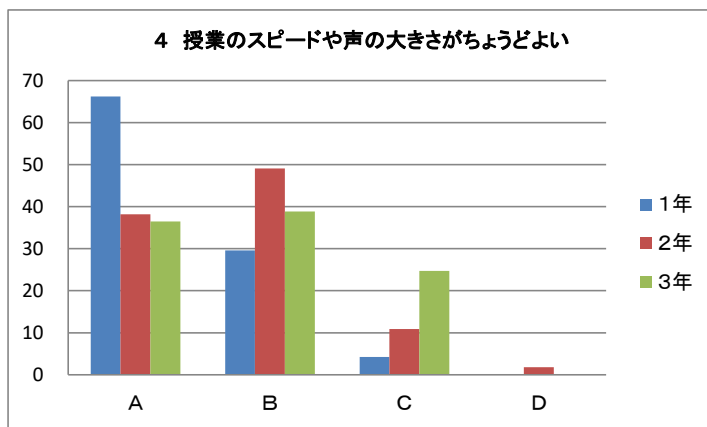
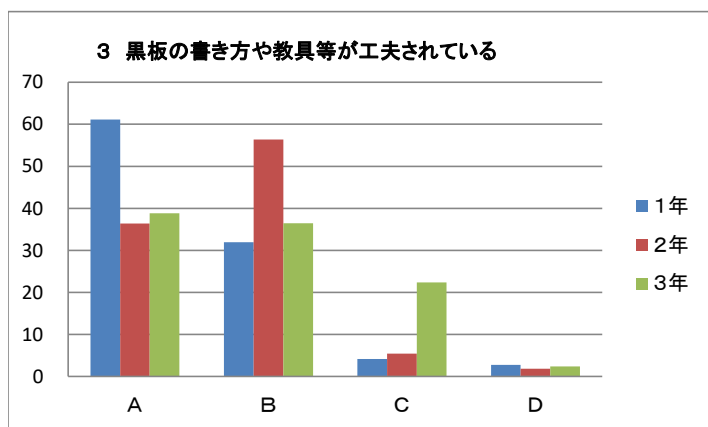
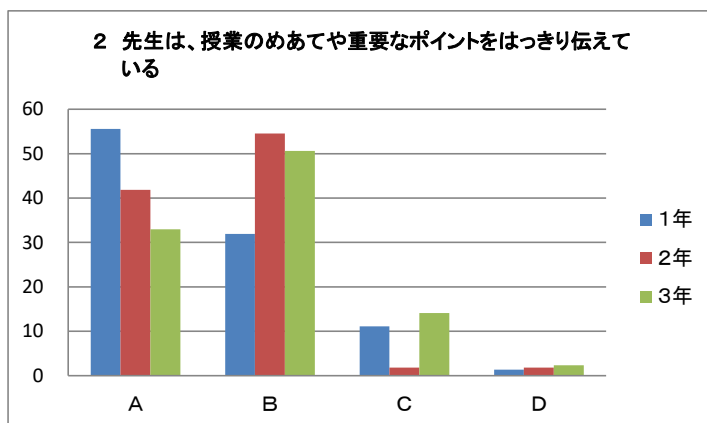
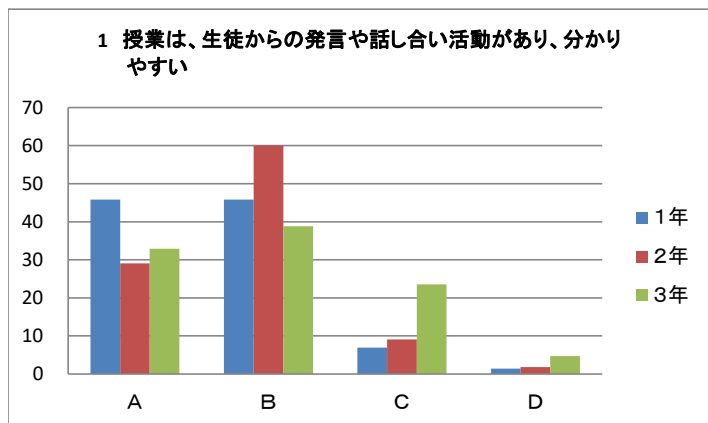
全体的に肯定的意見が多かった。「1」の結果について、教科の特性上、話し合い活動等の数値が低い。3年生の評価が低い傾向にあるのは、授業数が少なく、進度が速くなってしまうこと、レポート課題の難易度が高いためと考えられる。

【課題】

話し合い活動など、学び合う時間を増やしていく必要がある。教材教具について授業前の準備を、さらに進める。3年生の授業展開について、さらに前時の復習確認の時間を増やす。

令和元年度 7月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【家庭】

A:強くそう思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない



【分析】

全体的に肯定的な意見が多かったが、学年によって評価に違いが見られた。特に「5」からは、実習の授業を行っている学年に授業規律を正す必要性があることが分った。

【課題】

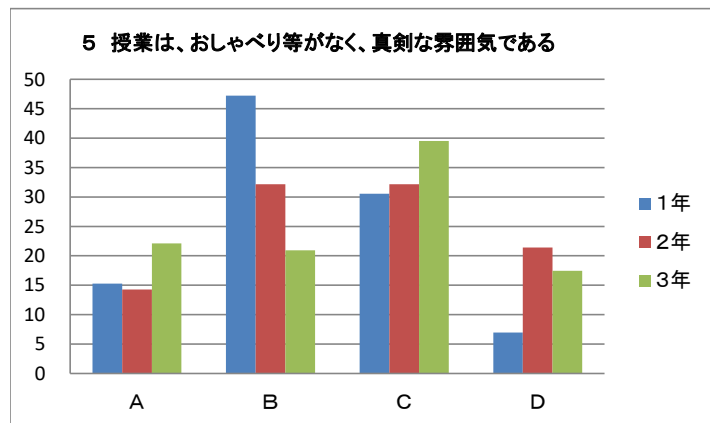
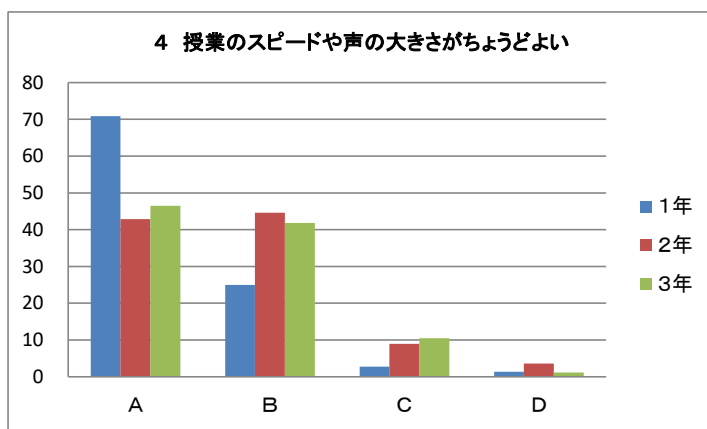
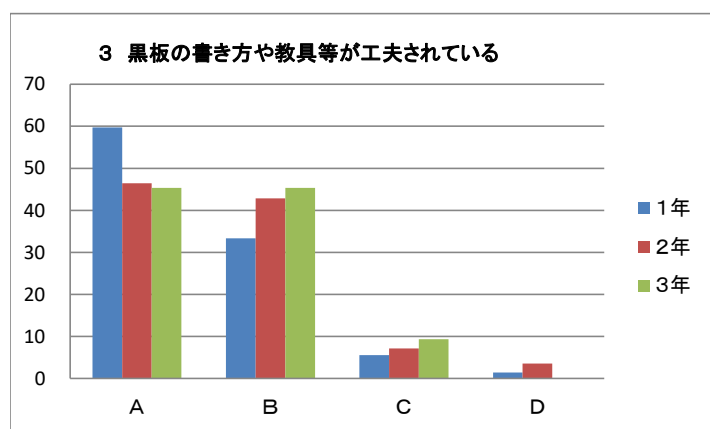
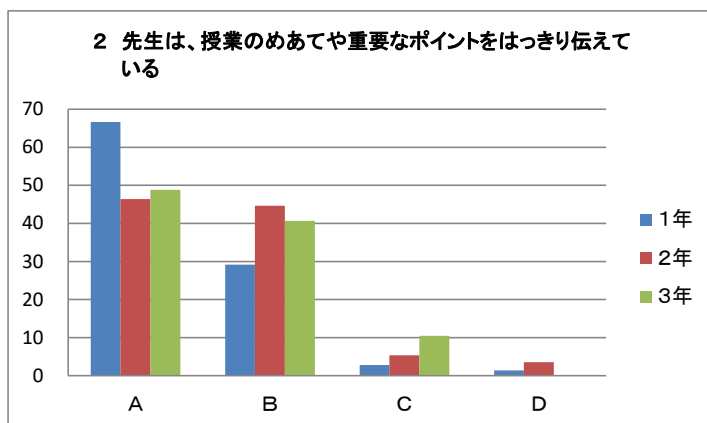
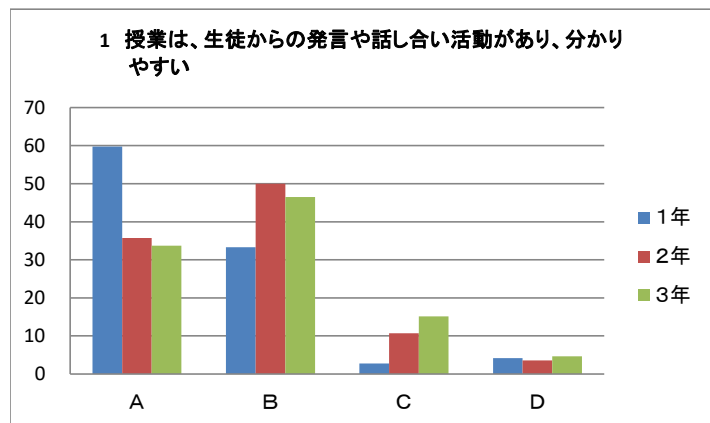
「1年」「1」から、生徒が自ら発言をして授業に取り組んでいることがわかる。二学期は、さらに生徒どうしの話し合いを設けていきたい。「2」からは、黒板の目標を自身で書くことにより、単元で身につける内容を理解できていることがわかる。

「2年」「1」から、実習を行う授業が多かったため、発言をする機会が少なかったことがわかる。二学期は単元によって、話し合い活動が持てるようにしていく。「2」から、めあてを口頭で説明していたが、ポイントがはっきり伝わっていないことがわかった。

「3年」「1」「2」から、授業数は少ないが、ポイントをふまえた、より理解が深められる授業をする必要があるということがわかった。実習においては、真剣に作業に取り組み、作品を提出できるようにさせていきたい。

令和元年度 7月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【美術】

A:強く思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない



【分析】

「1」～「4」については、A・Bと回答している生徒が多く、授業の意図や達成目標を、生徒が汲み取り、理解していると分かる。
「5」については、半数に近い生徒が、C・Dと回答している。発言や話し合いの場面と、個人で集中して取り組む場面の切り替えが適切に行われていないことが理由であり、授業の課題であると考え。

【課題】

質問項目「5」から読み取れる通り、授業内の規律や私語の面について改善すべき点がある。授業の形式や、話し方を工夫することで、授業の雰囲気を改善していく必要がある。

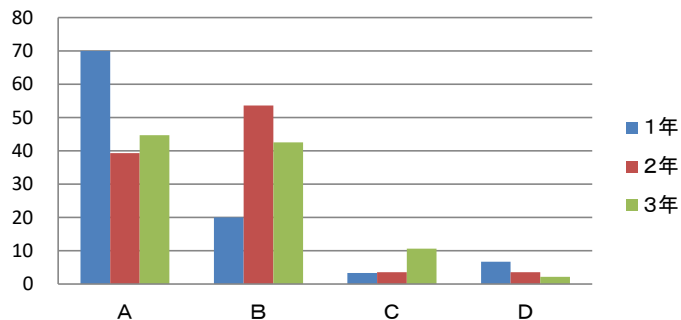
また、どの質問項目においても、学年が上がるにつれて、C・Dと回答する生徒の割合が増えていることについては、授業内での声かけや活動の内容を、学年ごとに工夫して設定することで、改善していく。

話し合い活動については、より高い目的意識を持って実施できるようにしていく。

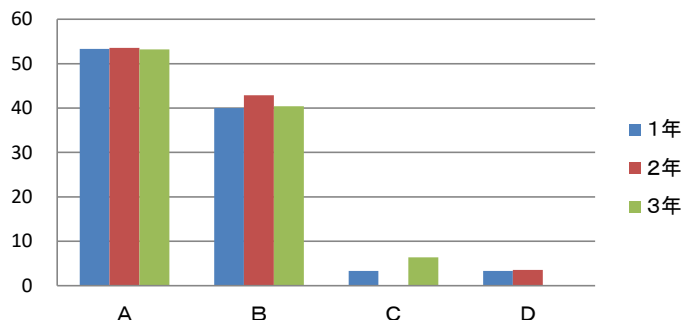
令和元年度 7月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【保体男子】

A:強く思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない

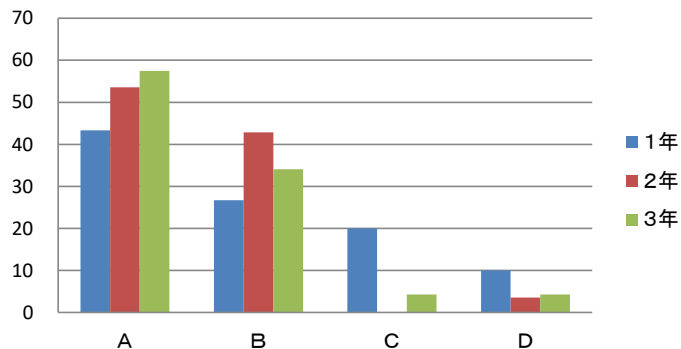
1 授業は、生徒からの発言や話し合い活動があり、分かりやすい



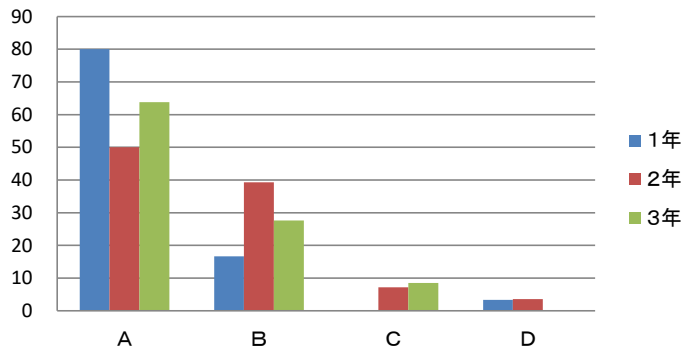
2 先生は、授業のめあてや重要なポイントをはっきり伝えている



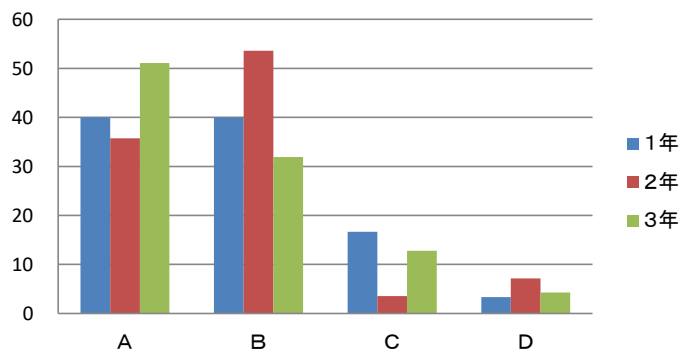
3 黒板の書き方や教具等が工夫されている



4 授業のスピードや声の大きさがちょうどよい



5 授業は、おしゃべり等がなく、真剣な雰囲気である



【分析】

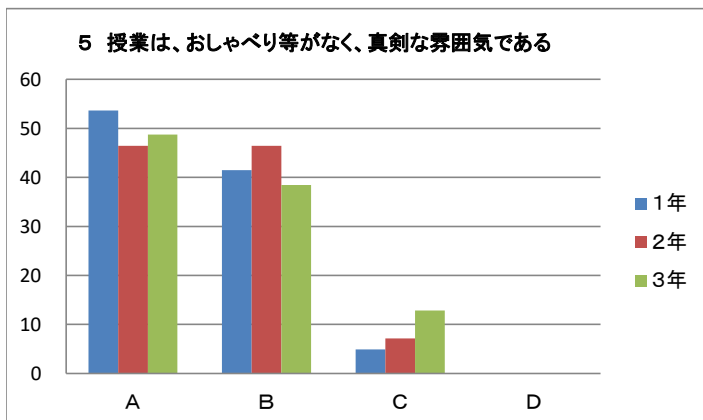
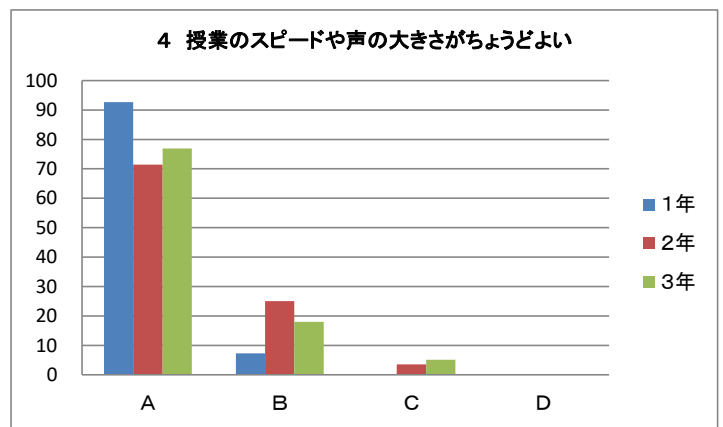
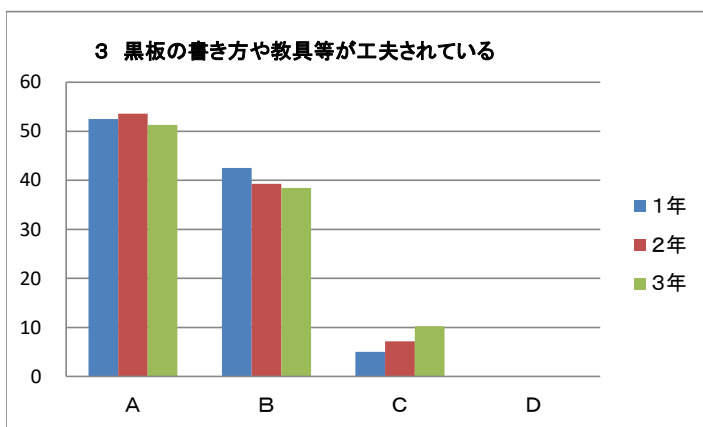
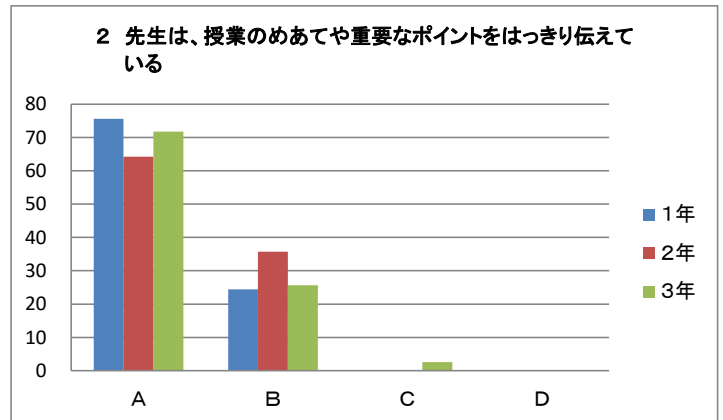
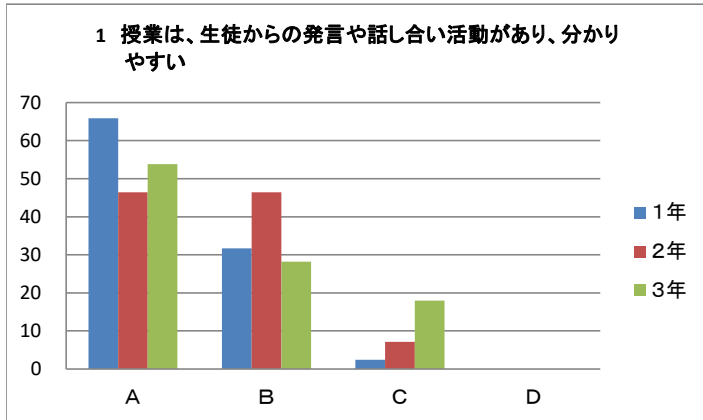
全体的にAB評価が多かった。その内、2では、90%がAB評価であり、授業のねらい、ポイントを意識して授業に参加できていることがわかる。
また、「5」の2年では、A評価よりもB評価の方が多く、おしゃべり等により真剣な雰囲気ができていないことがわかる。
CD評価に着目すると、全体としては少ない、運動が苦手な生徒に対しても、安全で、わかりやすく、達成感がある授業を目指すことで、CD評価を無くすべきである。

【課題】

「2」については、学習カードを工夫し、ポイントを整理するカードや、ポイントを提示するカードを積極的に作成していく。
「3」については、教具として、提示カードや壁掲示等を、効果的に使用する。保健では、板書時間を削減し、生徒との対話、話し合い活動、実験等を重視するためパワーポイントで授業を展開している。
「5」については、さらにメリハリのある授業展開を意識していく。真剣な雰囲気ができていない場合には、事故怪我につながることをより意識し、指導するように心がける。

令和元年度 7月 授業評価アンケート(生徒) 集計結果【保体女子】

A:強く思う B:大体そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない



【分析】

全体的にA・Bの評価が多かった。
「2」の項目においては、1、3学年は70%を超えているが、2学年は60%である。
D評価はなかったが、全体的に学年によって評価の差が大きかった。

【課題】

「2」より、授業の導入や指導内容を改め、めあてや解説などを分かりやすく伝えていく。
また「3」より、授業の単元によって教具の工夫に差があったため、C評価が多かった。苦手意識のある単元については、とくに改善していく。